

国際特別都市建設連盟

松江宣言

「松江宣言」策定の経緯

国際特別都市建設連盟首長会議

日時：令和7年10月23日（木）

場所：島根県松江市

内容：加盟都市による国際交流の現状・課題・将来像の協議

首長会議において、本連盟は「国際」の名を冠する組織として、世界における分断のリスクの高まりや異文化理解に慎重さが広がる状況に対して強い懸念を共有しました。



国際特別都市建設連盟とは

「国際観光文化都市の整備のための財政上の措置等に関する法律」が適用される都市により構成されている。

加盟都市相互の友好を深め、自治の進展を図るとともに、加盟都市にかかる特別建設法及び国際観光文化都市の整備のための財政上の措置等に関する法律の運用、計画及び実施に関し、促進を図ることを目的に発足した。現在、9市1町が加盟。

※名簿順

- (1) 別府市
- (2) 伊東市
- (3) 熱海市
- (4) 奈良市
- (5) 松江市
- (6) 芦屋市
- (7) 松山市
- (8) 軽井沢町
- (9) 日光市
- (10) 鳥羽市

軽井沢国際親善文化観光都市建設法

(目的)

第一条 この法律は、軽井沢町が世界において稀にみる高原美を有し、すぐれた保健地であり、国際親善に貢献した歴史的実績を有するにかんがみ、国際親善と国際文化の交流を盛んにして世界恒久平和の理想の達成に資するとともに、文化観光施設を整備充実して外客の誘致を図り、わが国の経済復興に寄与するため、同町を国際親善文化観光都市として建設することを目的とする。

背景と意義

軽井沢町は、明治時代から外国人宣教師や画家、政財界人などが避暑地として訪れ、「保健休養地」として発展してきた歴史がある。自然の高原美、清潔な気候、保養地としての価値、さらに国際性を持つという条件を兼ね備えていた。

戦後の日本が復興と国際交流の拡大を進めていた時期、軽井沢町では「軽井沢を国際親善文化観光都市として整備する」という構想が生まれ、その是非を問う住民投票が1951年7月18日に実施された。住民の賛意を受け、この構想は法的枠組みとして結実し、同年8月15日に「軽井沢町国際親善文化観光都市建設法」として公布された。

この法律は、単なる地域開発ではなく、「国際親善」「文化交流」「観光振興」「国の経済復興」という理念を融合させた、戦後日本でも特に特徴的なまちづくりのための特別法である。

前文

国際特別都市建設連盟は、終戦直後に、それぞれの都市が有する資源等に照らして、「国際文化の向上」「世界恒久平和の理想」「経済復興への寄与」「外客の誘致・定住」を掲げた加盟都市からなる。戦後80年の節目である2025年に、加盟都市の更なる発展を図るという本連盟の目的を、現代社会における課題に照らして再確認する。

本連盟に関連する法律の制定が進んだ約75年前、加盟都市が焼け野原から立ち上がるために選んだのは、国際的な交流を閉ざすことではなく、世界に「開き、学び、共に創る」ための道程だった。私たちは、先人からその意思を受け継いでいる。

私たち首長は、大切な住民を誰ひとり取り残さない。だからこそ、排外主義には与しない。分断のリスクが懸念される時代だからこそ、本連盟の構成都市は、平和を守る責任を果たさねばならない。

本年開催された大阪・関西万博では、世界158の国・地域と国際機関が集った。その経験を通じて、私たちは改めて、対話により各々の「違い」と「共通点」を理解できることを認識した。

相互の尊重と信頼に基づく交流こそが、暮らしの安定と持続可能な繁栄の土台となる。

日本の伝統は、異なる価値を受け止め、ときにそれらとの融合を経て、紡がれ磨かれてきた。私たちは、長期的な視座から学びを得て、本連盟に加盟する都市が連携して世界と協調することにより、日本の発展を牽引する主体であり続けることをここに宣言する。

1. 相互尊重と対話

分断のリスクが懸念される状況にあっても、対話を通じた相互理解は不可欠である。

誰一人取り残さない社会を目指す姿勢を貫き、互いを尊重し耳を傾けることが信頼を築く第一歩である。

私たち首長は、すべての住民の意思を尊重し、生活を支える使命を果たす。同時に、異なる文化や考えを認め受け容れる姿勢が、相互の理解を深める基盤となることを認識する。

その理解が得難い状況に直面しても、諦めるのではなく乗り越えようとする姿勢が重要であり、ときに長期的な時間軸をもって、対話を積み重ねていく。

2. 若者による異文化の理解と学び、創造

世界との交流を通じて異なる文化から学び、その学びを基にして共に創造を重ねることは、やがて新たな文化を築く。

特に、未来を担う若者においては、多様な文化を理解し、自分なりの解釈を加えて発信する力が、大切になると私たちは考える。積極的に異なる文化や世界と交流し、学びを深めることを推奨する。

激動する社会から学び続ける姿勢は、未来を切り拓く力となる。

3. 連携による国際交流の推進

本連盟には、戦後の復興期から続いてきた、加盟都市における連携・交流の歴史がある。

特に、他国の都市との交流は、国を超えた相互の信頼と尊敬を育む重要な基盤になる。また、私たちが来訪者に示すホスピタリティも、互いを尊重し、対話を重ね、異なる文化を受け容れて共創する、国際交流の一環である。

国際交流は、自分たちの文化や価値観を発信し、違いを発展的に認め合うとともに、自分たちのまちの魅力を再発見し向上する取組でもある。

国際特別都市建設連盟は、今後も、我が国の国際交流の大きな推進力となるよう連携する。